

写真データあり

令和2年5月7日

市政記者クラブ 様

東 山 総 合 公 園

担当 動物園 茶谷・白木

電話 782-2114

ホッキョクグマが死亡しました

令和2年5月6日、東山動植物園で飼育展示していたホッキョクグマのサスカッチ（オス）が死亡しましたので下記のとおりお知らせします。

なお、サスカッチの死亡により東山動植物園でホッキョクグマはご覧いただけなくなりました。

記

1 死亡個体

- ・種 名：ホッキョクグマ
- ・性 別：オス
- ・愛 称：サスカッチ
- ・年 齢：推定30歳（1990年野生保護）
- ・体の大きさ：体重260kg、体長214cm（死亡時）

2 死亡までの経緯

- ・本年1月中旬から食欲が著しく低下し、動作が緩慢になったため投薬治療を開始しました。
- ・2月中旬には精巣腫瘍が見つかり、摘出手術を行ったところ、一時的に元気食欲が回復しました。
- ・血液検査によって肝臓・腎臓の異常が把握できていたことから、継続して投薬治療を続けましたが、令和2年5月6日午前9時頃に死亡が確認されました。

3 死亡原因

肝及び腎不全、腹膜炎 ※詳細は検査中

4 エピソード

- ・1990年11月に来園して以来、東山動植物園で飼育されてきました。
- ・おっとりとした性格で、プールでのんびりと遊ぶ姿などがかわいらしく、大変人気がありました。
- ・1991年に来園したオーロラや1994年に来園したミリーとの繁殖が期待されていましたが、残念ながら繁殖に至ることはありませんでした。（オーロラとミリーはすでに死亡。）
- ・オスのホッキョクグマでは国内最高齢で、長きにわたり全国の方々から親しまれてきました。

5 献花台について

東山動植物園は現在臨時閉園中のため、再開園後に設置を予定しております。

【参 考】

■東山動植物園のホッキョクグマ飼育数

サスカッチの死亡によりホッキョクグマはいなくなりました。

■国内のホッキョクグマ飼育数（2019年12月末現在）

21園 38頭（オス 13頭、メス 25頭）。※死亡したサスカッチを含む

■ ホッキョクグマについて

- ・食肉目クマ科
- ・北極圏沿岸、ユーラシア大陸の流氷水域、アメリカ大陸北部に生息し、主にアザラシや魚を食べる。野生個体数は20,000～25,000頭と推定され、IUCNの絶滅危惧種（VU）に指定されている。
- ・クマの仲間では最も大型で、オスの体重は420～500kg、時に800kgに達することもある。メスの体重は150～300kg。無色透明な体毛で覆われているが、その体毛の内部がストローのように空洞となっているため、光が散乱して白く見える。他のクマに比べ、首が長く頭は相対的に小さい。妊娠中のメスだけが冬眠し、11月から1月にかけて出産する。寿命は25～30年。

【写真】 在りし日のサスカッチ（オス）（2018年11月20日撮影）

